広島第１分所（善通寺）メモ

POW 研究会　笹本妙子

1942 年 1 月 14 日、善通寺捕虜収容所本所として、香川県善通寺町大字先野に開設。
1945 年 4 月 13 日、広島捕虜収容所に移管、同第１分所となる。
1945 年 9 月、閉鎖

善通寺収容所

グラウンドで体操する捕虜たち

●太平洋戦争開戦後、国内で最初に開設された収容所。グアム島やウェーク島、マーシャル諸島、ラバウル（ニューブリテン島）、フィリピン、ジャワなどで捕らわれた各国捕虜が、ピーク時には 400 人ほど収容されていたが、移動も多く、終戦時収容人員は 110 人（米 104、NZ5、英１）。
●将校が多く、他の収容所に比べると待遇が良く、日本側からは“模範収容所”、捕虜側からは“プロパガンダ収容所”とみなされていた。
●使役企業は日本通運高松支店。下士官兵は高松駅構内や坂出港で荷役として働き、将校は大麻山の開墾作業に駆り出された。
●善通寺俘虜収容所長：初代＝水原義重少将（善通寺師団兵務部長との兼任）、２代目＝近藤玉衛大佐（のち広島俘虜収容所本所長）／広島第１分所長＝細谷雄平中尉（のち大尉）
●「模範収容所」と言われたが、それでも７人（所長、軍医、通訳、日通職員など）が戦犯として 1～30 年の刑を科せられた。
●収容所跡地は、現在の善通寺西中学校付近（善通寺市文京町 4-1）
●収容中の死者 10 人（米７，英２，豪１）。陸軍墓地内に、昭和 27 年に民間人の横川敏雄氏（故人）が建てた捕虜の墓がある。（実際には 10 名の名前を刻んだ慰霊碑。遺骨は戦後母国や横浜の英連邦墓地に送られた）

●市内に住む大北文男氏は、戦中、市役所衛生課職員だった父の遺志を継いで、自宅の仏壇に死亡捕虜の名前を書いた位牌を供え、朝夕お経をあげている。
●数年前には、当時の状況を知る人々が３，４人いたが、死去や高齢化により取材が不可となった。
●善通寺図書館や、隣接する自衛隊善通寺駐屯地の乃木資料館に善通寺収容所関係資料がある。
●元捕虜や遺族が善通寺を訪問したときには、隣町の三豊市と広島県福山市に住む POW 研究会会員がいつも案内役を務めている。